



令和7年12月 発行
燕市吉田地区地域包括支援センター
〒959-0242 燕市吉田大保町25番15号
☎ 0256-94-7676

第27号

令和7年度 第2回 吉田地区地域ケア会議の報告

令和7年10月15日、今年度第2回吉田地区地域ケア会議を開催しました。当日は、55名の方からご参加いただきました。会議の内容を報告いたします。

1. 今回の地域ケア会議 【テーマ】 地域と施設のつながりについて

コロナ前には、地域行事や施設イベントにお互いが参加し、住民・入所者・職員が顔を合わせる機会が自然に存在していました。しかし、コロナ禍による外出制限と感染症への不安が長期化したことで、関係性は途切れ、元に戻すには時間と労力が必要となっています。施設は地域との再構築を願うものの、施設内感染の心配があり、住民側も「関わっていいのかわからない」「迷惑をかけたくない」と感じており、双方が“遠慮”し合う構造が交流の再開を妨げている要因の一つと考えました。

そこで、今回の会議では、国や市が掲げる「地域共生社会」の実現に向けて、住民・施設・行政がそれぞれの立場からできることを持ち寄り、共に考え、支え合う関係性の再構築を目指したいと考え「**地域と施設のつながりについて考える**」をテーマにしました。

今回のテーマについて
参加者のみなさんの思いを共有したり
それぞれの立場でできることは何かを
真剣に話し合いました☆



【グループワークで出た課題】

①地域とのつながりの希薄化、地域⇄施設の情報不足

地域交流・ボランティア活動再開のきっかけがつかめない

地域住民が施設の様子やニーズがわからない

「ボランティアに行ってもいいのかな?」「どこに声をかけるといいんだろう?」

②施設の人手不足

現場スタッフや薬局など地域連携をしたくても人手が足りず動けない、高齢化による地域役割の担い手不足
(組長・まち協など)

③世代間、職種間の距離感

保育園・学校・学生ボランティアとの交流がない、異職種連携の機会が少なく相互理解が進みにくい

①情報発信ときっかけづくりの強化

- ・「施設だより」やスーパーへの掲示、回覧板など、地域に届く形で発信を工夫
- ・ホームページの更新、SNS 活用（TikTok、メール、アプリなど）も有効
- ・施設の開放・施設見学・施設でのイベント開催（認知症カフェ、文化祭、スタンプラリー、ミニ講座など）
- ・食や作品展示など、参加しやすい要素を取り入れる工夫

②小さなつながりの積み重ね

- ・施設の草取り、清掃、避難訓練など、日常的な活動を通じた交流
- ・「細くても続ける」ことで関係性を維持し続ける



③学校・子どもたちとの連携、多世代とのつながり

- ・小学生との作品交流、文化祭への出展など、子どもを介したつながりは親世代にも広がる
- ・学生ボランティアの活用



④多職種連携の推進

- ・薬剤師、警察、消防、食生活改善推進委員などの専門職と連携し、ミニ講座や健康相談会を企画
- ・健康講話やお薬教室など、専門性を活かした地域貢献、気軽に立ち寄れる薬局づくり

⑤ボランティア・協力者の受け入れ体制の整備

- ・感染対策をしつつ、見学、面会の工夫 見学を受け入れることで施設の理解が進む
- ・若い世代が施設を知る機会を増やすことで、将来的な利用や支援につながる
- ・「少しならでできる」人が関われる仕組みづくり（マッチング機能、窓口の明確化）
- ・草取り、イベント手伝い、講座運営など、役割の幅を広げる工夫



⑥参加しやすい場づくり

- ・キッチンカーの導入、スタンプラリーの実施、送迎支援など、誰もが気軽に参加できる工夫を凝らす
- 包括や地域団体、民間事業所が協力し、場づくりを支援する



2. 今後の取り組み

今回の会議で挙げられた課題や意見をもとに、当センターでは、

- ①ボランティアの受け入れ体制の整備について社会福祉協議会に課題提起します。
- ②施設側へボランティア活用や地域住民を巻き込んだイベント開催等、再構築に向けた働きかけ（エリア担当を中心に）をします。
- ③各支え合い委員会に施設や包括の参加を提案します。
相談があった場合や必要に応じて、地域との連携のサポートを行います。



3. まとめ

たくさんの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。今回の地域ケア会議では、「地域と施設のつながり」について、さまざまな立場からの意見や課題が共有され、今後の取り組みへのヒントが多く得られました。

これからは、住民・施設・行政、そして関係機関が一緒になって、小さなつながりをひとつずつ積み重ねながら、地域全体で関係性の再構築を進めていきましょう。今後もよろしくお願いいたします。

